

講義コード		科目区分	専門教育科目
(フリガナ)	センモンエンシュウ	(フリガナ)	タカハシ ノリオ
授業科目名	専門演習	担当教員名	高橋 憲夫
英文授業科目名	Seminar of specialized (aesthetics)		
基準年次(開講期)	3年(通年)	履修形態	必修
曜日/ 時限/ 講義室	火 2 限/ 池袋		
授業の方法	演習	授業の方法 (詳細情報)	演習
単位	2	週時間	4
授業のキーワード	卒業研究のための基礎課程		
授業概要・目的	西洋の美学・美術史の認識を深める。日本語の記述、論述文の書き方を身につける。卒業研究のテーマの設定、研究方法の確定を目指す。資料・文献の特定と分析、整理の方法を学ぶ。		
到達度評価の評価項目	文章力の一定程度の向上が認められること。卒業研究のテーマが設定できたこと。資料収集の方法、整理・分析の方法の理解が進んでいること。卒業研究としての論文の構想ができたこと。		
授 業 計 画			
(前期) 第 1 回	ガイダンス：演習の趣旨説明。日本語の表記、読解、文章表現能力、芸術の知識についてのテストを実施。		
第 2 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 1 (古典古代ギリシアの美意識と芸術 1 叙事詩から抒情詩へ)		
第 3 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 2 (古典古代ギリシアの美意識と芸術 2 プラトン、アリストテレスの時代)		
第 4 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 3 (古典古代ギリシアの美意識と芸術 3 ヘレニズム期)		
第 5 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 4 (ローマ帝国時代の美意識と芸術 1 ローマ帝政の興隆と衰退)		
第 6 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 5 (ローマ帝国時代の美意識と芸術 2 キリスト教の伸張)		
第 7 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 6 (中世ゲルマン世界の美意識と芸術 1 フランク王国の成立と分裂)		
第 8 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 7 (中世ゲルマン世界の美意識と芸術 2 スコラ哲学と美学)		
第 9 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 8 (中世ゲルマン世界の美意識と芸術 3 ゴシック様式の美意識)		
第 10 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 9 (中世ゲルマン世界の美意識と芸術 4 後期ゴシックの変容)		
第 11 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 10 (中世ゲルマン世界の美意識と芸術 5 ゴシックからルネサンスへ)		
第 12 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 11 (中世ゲルマン世界の美意識と芸術 6 北方ルネサンス)		
第 13 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 12 (近世の美意識と芸術 1 イタリアルネサンスの成立 1 都市の形成)		
第 14 回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 13 (近世の美意識と芸術 1 イタリアルネサンスの成立 2 自我の確立)		
第 15 回	まとめ これまでの経験を踏まえて、自己の研究テーマを明確化し、論文の構想化に着手する。		
教科書・参考書等	『美学辞典』竹内敏雄監修 弘文堂 『美学総論』竹内敏雄 弘文堂 『美学 上下巻』大西勝禮 弘文堂		
授業で使用する機器等	P.C. インターネット DVD、Blu-ray などの視覚教材		
予習・復習へのアドバイス	予習よりも復習を重視。講義で取りあげられた事柄を自分で調べなおし、確認すること。		
履修上の注意・受講条件等	初回の授業時に選抜テストを実施します。合格者のみ受講を認めます。また、年間 30 回の講義は、毎回の内容が異なります。遅刻や欠席はしないこと。ゼミ担当教員の都合、大学の事情で休講になった場合は必ず補講をします。		
成績評価の基準等	授業内小テストの成績 20%、課題の提出とそれへの評価 20%、学期末のゼミ論(レポート)の評価 60%		
メッセージ	第一回目の授業には必ず出席すること。研究論文作成の強い思いがないと続けられません。		
オフィスアワー	講義担当日の最初と最後の科目の前後一時間は、研究室に居ます。但し、5 限終了後は例外で、退室、帰宅します。		
その他	専門演習は必修科目ですが、担当教員が何人もいますので選択が可能です。自分に合った領域、専門分野、テーマのゼミを見つけましょう。このゼミは西洋哲学・思想、美学・芸術史、精神史をテーマにするゼミです。		

講義コード		科目区分	専門教育科目
(フリガナ)	センモンエンシユウ	(フリガナ)	タカハシ ノリオ
授業科目名	専門演習	担当教員名	高橋 憲夫
英文授業科目名	Seminar of specialized (aesthetics)		
基準年次(開講期)	3年(通年の後期)	履修形態	必修
曜日/時限/講義室	火2限/池袋		
授業の方法	演習	授業の方法 (詳細情報)	演習
単位	2	週時間	4
授業のキーワード	卒業研究のための基礎課程		
授業概要・目的	日本語の記述、論述分の書き方を身につける。卒業研究のテーマの設定、研究方法の確定を目指す。資料・文献の特定と分析、整理の方法を学ぶ。		
到達度評価の評価項目	文章力の一定程度の向上が認められること。卒業研究のテーマが設定できたこと。資料収集の方法、整理・分析の方法の理解が進んでいること。卒業研究としての論文の構想ができたこと。		
授 業 計 画			
第1回(後期)	ガイダンス：後期の演習の進め方。後期科目の履修登録の援助。後期学納金の分割手続きの援助。		
第2回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 14(バロックの美意識と芸術 1 晩年のミケランジェロ)		
第3回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 15(バロックの美意識と芸術 2 イタリア)		
第4回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 16(バロックの美意識と芸術 3 スペイン)		
第5回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 17(バロックの美意識と芸術 4 フランス)		
第6回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 18(バロックの美意識と芸術 5 オランダの市民バロック)		
第7回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 19(新古典主義の美意識と芸術 1 フランス)		
第8回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 20(新古典主義の美意識と芸術 2 ドイツ・オーストリア)		
第9回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 21(近代の美意識と芸術 1 フランス：自然主義、写生主義)		
第10回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 22(近代の美意識と芸術 2 印象派の成立)		
第11回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 23(近代の美意識と芸術 3 印象派の展開)		
第12回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 24(近代の美意識と芸術 4 後期印象派)		
第13回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 25(近現代の美意識と芸術 1 ドイツ表現主義の黎明期)		
第14回	美学・芸術史の基礎及び文章講座 26(近現代の美意識と芸術 2 ドイツ表現主義の成立)		
第15回	まとめ 自己の研究テーマの確定、研究論文の構成を構想できること。		
教科書・参考書等	『美学辞典』竹内敏雄監修 弘文堂 『美学総論』竹内敏雄 弘文堂 『美学 上下巻』大西勝禮 弘文堂		
授業で使用する機器等	P.C. インターネット DVD、Blu-rayなどの視覚教材		
予習・復習へのアドバイス	予習よりも復習を重視。講義で取りあげられた事柄を自分で調べなおし、確認すること。		
履修上の注意・受講条件等	初回の授業時に選抜テストを実施します。合格者のみ受講を認めます。また、年間30回の講義は、毎回の内容が異なります。遅刻や欠席はしないこと。ゼミ担当教員の都合、大学の事情で休講になった場合は必ず補講をします。		
成績評価の基準等	授業内テストの成績、課題の提出とそれへの評価、学期末のゼミ論(レポート)の評価		
メッセージ	第一回目の授業には必ず出席すること。研究論文作成の強い思いがないと続けられません。		
オフィスアワー	講義担当日の最初と最後の担当科目の前後一時間は、研究室に居ます。但し、5限は例外です。		
その他	専門演習は必修科目ですが、担当教員が何人もいますので選択が可能です。自分に合った領域、専門分野、テーマのゼミを見つけましょう。このゼミは西洋哲学・思想、美学・芸術史、精神史をテーマにするゼミです。		